

概 要 報 告

実施期日	8月1日(木)
部 会 名	小学校 音楽部会

神奈川県研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『伝え合う活動を通じた表現力を育む音楽科教育の授業づくり』

提案概要

- 5年生、保護者（3学期の学習参観）を招待して音楽会を企画。
- 教科書の教材ではなく、児童が親しみやすい楽曲を選曲。
- 4月から一人一役の係活動に音楽会の係を位置付け。
- 総合的な学習の時間に音楽会の合奏について話し合い、目的意識（誰に演奏するのか）の確認やこれからの計画、みんなの好きな部分を選び、曲のイメージを伝え合いながらイメージを共有。
- 歌詞付きの楽曲を用い、曲想の変化の違いの比較、自分のパートの役割の意識など、演奏の工夫について考えさせた。→曲想の変化の根拠となるものに気付き、自分たちの表現に生かせるよう示唆。
- 曲想の違いを比べ、「強弱」「旋律」「音の重なり」など、『音楽を形づくっている要素』に気付かせた。
- ロイロノートのシンキングツールを使い、縦軸に「強弱」横軸に「速度」を設定し、短調の部分、長調の部分がどこに位置するのか自分で操作しながら整理するとともに、音楽を形づくっている要素の組み合わせが変化することで、感じ方が変化することを理解させた。
- 合奏の演奏の工夫では、曲想が変化するとき、「強弱」「音の重なり」「リズム」などが変化することを生かして、曲想にあった演奏の工夫を考えさせた。
- 音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みなど、『音楽を形づくっている要素』のことを「音楽のアイテム」と呼んで、児童に紹介。音楽室の後ろの壁に掲示。
- パートの役割を理解できるように、「主な旋律」だけで最後まで通す練習。

質疑応答

特になし

協議の柱及び協議概要

○子どもの主体的な表現を引き出す工夫

興味関心を高める工夫

- 2回、音楽会を企画
- 児童が親しみやすい楽曲を選曲（3クラス3曲）
- 音楽会の係を作る
- 総合的な学習の時間で音楽会の合奏について話し合う

楽曲の特徴に気付かせる工夫

- 歌詞付きの楽曲を用い、曲想の変化の違いの比較、自分のパートの役割の意識など、演奏の工夫について考えさせた。
- 曲想の違いを比べ、「強弱」「旋律」「音の重なり」の音楽を形づくっている要素に気付かせた。
- ロイロノートのシンキングツールの使用。
- 音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みなど、『音楽を形づくっている要素』を「音楽のアイテム」と呼んで児童が、親しみやすいように紹介。音楽室の後ろの壁に掲示。
- パートの役割を理解できるように、「主な旋律」だけで最後まで通す練習。
- 曲想のキーワードを子どもたちに考えさせて、表現を工夫させた。

○小・中学校のそれぞれの音楽科が目指す子どもの学びの姿

小学校では、友達との関わり合いや話し合いを通して、演奏の工夫について児童が主体的に考え、表現している。また、協働での学び合いに焦点を当てることで、音楽の豊かさや楽しさに気付いてほしいと考えている。

まとめ概要

資質能力を育成するにあたり、子どもたちがどのように学ぶかを、子どもたちのより良い学びの姿として示されているのが、「主体的・対話的で深い学び」である。すなわち授業者ではなく、学習者が主体となる授業作りが大切である。指導するにあたり、教師のやってほしい姿を提示することが悪いわけではないが、演奏のイメージを子どもたちに問いかけて、話し合わせる中で、どのように演奏するのか子どもたちが考え、つくりあげていた。そこには、もどかしさや難しさがあつたと思うが、それを根気強く、丁寧に子どもたちに寄り添いながら取り組めていて素晴らしかった。最終的に思いや意図を持った合奏になっただけではなく、個々の子どもたちがクラス合奏の出来栄に、自己評価をできるようになるまで成長し、その様子からも大切な資質能力が育成されていることがわかった。

子どもたちが話し合った曲想のイメージを、自分自身が演奏でどう表現するかというところにもポイントがあつたと思う。今回の最も有効な手立てが「曲想のイメージ」だつたと思うが、その曲想のイメージについて、2学期の音楽会に向けて自分の演奏の工夫とクラス全体で音を合わせる事が繰り返され、より曲想のイメージを表現するためにはどうすればいいのか、試行錯誤する場がしっかり保障されていた。その結果、クラスの子どもたち一人ひとりにとって、大切なものとなり、自らの演奏を習得することへの必然性が生まれた。主体的に取り組む態度でも言われているが、自らの学習を調整する側面と粘り強く取り組もうとする側面が、2学期の音楽会に向けて見られただけでなく、自分たちで話し合つて決めた曲想のキーワードがあつたからこそ、3学期の学習参観まで、子どもたちの意欲が途切れず、試行錯誤することができたのだと思う。

この単元だけではなく、これまでの授業においても学習の積み重ねを丁寧に行われてきていて、音楽のアイテムなどから、それらが伝わってきた。音楽のアイテムは、苦手な子どもへの有効な手立てであり、子どもたちが話し合い、工夫するときの子どもの思考判断のよりどころになっていた。

今回、小中学校の両方の先生方が集まる中で、小学校の取組を知ってもらおう良い機会になった。